

租税納付及び広報活動関連事業（税は思いやり）

取材日：平成23年（2011年）2月2日

【活動内容】

船橋納税貯蓄組合連合会（以下、納連）は ①納税貯蓄組合の指導、育成 ②納税道義の高揚を図り、納期内納付の推進 ③中学生の「税についての作文、ポスター」等の募集活動を通じて一般市民の税に対する啓蒙を図ることなどを目的とし、昭和27年に設立され、58年の歴史がある。

全国では約259万人（5万4千組合 平成21年3月末現在）、船橋市では約5、300人（90組合 平成22年3月末現在）が活動中である。この歴史の中で社会情勢も大きく変化し、昨今では高齢化が進み、医療、子育て、弱者救済の必要性が叫ばれている。このような現状の中、活動内容は、将来の希望ある国づくりの心を育てるため、①中学生の「税についての作文、ポスター」の募集、表彰に力を入れ ②税の研修実施 ③街頭キャンペーンの実施 ④市民まつりのイベントに参加し納税の啓発に努めている。

【支援金事業】（支援対象経費総額 171,820円 支援金確定額 85,910円 支援率 50%）

事業の内容は、①中学生の「税についての作文、ポスター」募集、表彰、作文集発行（22年6月～22年12月）、②税の研修の実施（22年11月、23年1月）、③納期内納付推進等の街頭キャンペーン（23年2月）、④市民まつり等のイベントに参加し納税思想の啓発を図る（22年7月）、⑤納税貯蓄組合へ税の納期内納付協力依頼である。

これらの事業を通じて、中学生の税に関する知識の向上、納税者の意識の向上、納付率のアップを継続的に図り、高齢化社会、社会的弱者の救済に役立てていくものである。

【活動の現場から】

2月2日（水）午後2時からJR船橋駅北口、南口で行われた街頭キャンペーンを取材した。この街頭キャンペーンは20年以上続けられている。納連の役員を中心に20人がボランティアで参加して確定申告早期提出推進の協力をお願いしつつ、2,000枚のチラシが配布された。チラシを受け取った市民の中には賛同者も多く、事業の目的を評価する声も聞かれ、労いの言葉もかけられていたのが印象に残った。



街頭キャンペーン

【支援金事業のもたらす効果】

税は思いやりを合言葉に事業を展開しており、次代を担う中学生を対象に租税教育推進活動の一環として、中学生の作文、ポスターの募集活動を重要目標と位置づけている。22年度は、27中学校より作文2,912編、ポスター90点の応募があり、そのうち1編が東京国税局長賞を受賞した。

「税についての作文、ポスター」募集活動も既に43回を数え、応募した人の多くは良き納税者となっていることと信じ、将来も納期内納付が上昇していくと期待している。

加えて、子供たちの将来に向けて、税のありがたさの理解、親子で税の話をするなど正しい税の理解者、協力者の拡大を狙っている。

このような税の研修、啓蒙、キャンペーンを毎年継続実施していくことにより、一般市民が税は国、県、市の動脈であることを理解していくものと考えている。



税についてのポスター

【取材を終えて】

税は思いやりの気持ちを育てて行きたいという丸子会長の言葉は市民としても大切なことであると感じた。

また、「納税という行為は、日本中を笑顔にするために私たちができる一番身近で、最も重要なことだと私は考えます。会ったことのない、まして話したこともない多くの人の力が、私の暮らしや心を支えてくれている。」という中学生の税についての作文には感動した。

関わり先（連絡担当者） 船橋納税貯蓄組合連合会 会長 丸子 貞良 TEL：047-431-1000
--